

獅子と狛犬

佐和田 丸

(高10期・昭和34年卒)



写真は、拙宅の玄関に鎮座する、狛犬である。国の重要文化財である。



以前、京都国立博物館・平成知新館で、「獅子と狛犬」展があり行ってきた。

獅子は、向かって右にいて、口を開いている。狛犬は左におり、口を閉じ、頭に角が生えている。

獅子・狛犬のモデルは、百獣の王であるライオンである。日本に生息していないライオンがそのモデルになったのは興味深い。

エジプトでライオンは、王様の力の象徴であった。人間の頭とライオンの体をもつスフィンクスは、王様の姿を表していると言われている。

西アジアでは、ライオンはお城を守る動物と考えられており、門をライオンの彫刻で飾るのが常であった。

インドでは、ライオンは仏さまの偉大さを表すために、台座や柱に表された。

ライオンが生息していない中国では、唐獅子と呼ばれる独特の姿で表されるようになった。唐獅子にはまゆげがある。

日本に伝来した獅子は、絵や彫刻、工芸などに好んで表された。

日本に獅子が伝わると、対にする存在として、狛犬が考えられ、ペアで表されるようになった。基本的には、獅子と狛犬がペアであるが、角のないものを2頭あわせて「狛犬」と呼ぶこともある。

木や石、金属、やきものなど、いろいろな材質や、大小の獅子・狛犬がある。時代や流行によってスタイルもいろいろ。獅子と狛犬ではなく、キツネやウサギ、イノシシなどをおいている神社もある。

終わりに、拙宅の狛犬について補足説明しておきます。

飯南町の実家は、しょうゆ・みそ製造販売業を営んでいたが、経営者の実兄の急病死により、廃業のやむなきにいたりました。後に膨大な醸造用具が残された。

それなりの民俗資料、文化遺産で、吹田市の国立民族学博物館や広島県立民俗資料館にお願いして、保存していただくことになりました。その広島館から、資料充実のため、貢献していただいた記念として頂いたのがこの金属製の狛犬である。広島県三原市八幡町の、御調(みつぎ)八幡宮の国の重要文化財狛犬であり、実物は木製である。

私は、この狛犬を見るたび、実家の醸造用具を思い出す。狛犬は、今は我が家の守り神として、玄関に鎮座してくれている。

HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>

もあわせてご覧ください。